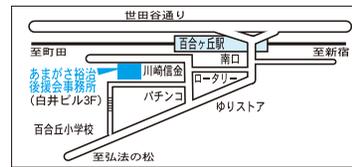




発行所／
みらい川崎市議会議員団事務局
〒210-8577
川崎市川崎区宮本町1番地 川崎市役所23F
TEL:044-200-3355 FAX:044-245-4135

百合丘事務所／
〒215-0011
川崎市麻生区百合丘1-20-7 白井ビル3F
小田急線百合丘駅下車徒歩1分
TEL・FAX:044-955-2417
メール: amagasa-@khaki.plala.or.jp



ホームページ: <https://www.e-amagasa.net> Facebook、ツイッターでも情報発信しています

横浜市高速鉄道3号線延伸計画のいま 2030年開業に向けて 確実に検討・準備が進んでいます



川崎市として「地下鉄新百合ヶ丘駅と 中間駅周辺の整備」についての取りまとめを

予算議会の質疑から 麻生区のまちづくりに 皆様のご意見を!

横浜市高速鉄道3号線のあざみ野駅～新百合ヶ丘駅の延伸について、「進捗状況はどのようになっているのか」と、多くの方々からお問い合わせをいただいております。

寄せられているご意見の中には延伸事業が遅れるのではないかとといったものから、川崎市側からの市民への報告の少なさによる不安や不満などがみとれます。

特に昨年の決算審査で鉄道事業予算が2年にわたり執行されていないとの指摘があり、一部報道でも取り上げられました。しかしながらこの鉄道予算は2019年に締結した覚書に則って、両市が事業を進めるうえで当然計上しておくべき相互関係に基づく性格のものです。事業を横浜市が行っている以上、川崎市はいつでも執行するために計上をしておかなければならない、言わば抱き合わせの関係性を持つ予算と考えられると思えます。

そこで麻生通信では市民の皆様には现阶段で私の知れる限りの情報について報告させていただきたいと思っております。

令和6年2月上旬に横浜市会議員の同席のもと、横浜市の担当者からヒアリングを受けてきました。

横浜市 令和6年度予算での位置付けは?

横浜市においては、令和6年度予算の中でブルーラインの延伸事業について以下のように位置付けております。

横浜市の令和6年度の事業予算は、2億1607万円で、検討が進んでいます。



川崎市議会議員
あまがさ ゆうじ 裕治

<横浜市 高速鉄道3号線の延伸予算 2億1607万円>

令和2年1月に概略ルート・駅位置を選定し、その後、横浜市条例に基づく環境影響評価手続に着手し、関係機関との協議・調整、行政手続や調査・設計を進めてきましたが、昨今の建設物価の高騰やコロナの影響による鉄道需要の減少など、**顕在化した新たな課題**への対応に時間を要している状況です。

令和6年度は、課題の解消に向けて引き続き取り組むとともに、早期の事業着手に向け、調査・設計の深度化や関係機関との協議・調整、行政手続を進めます。

<横浜市と川崎市の連携> 横浜市と川崎市は、平成23年度に新たな交通体系の検討のための連携・協力に関する覚書を交換して以降、本路線について、両市で具体的な検討・調査を開始しています。このたび、相互に連携・協力し、**早期開業を目指すことを目的**として、覚書を交換しました。また、駅周辺の基盤整備や沿線のまちづくりについても、**両市で相互に連携・協力して、取り組んでいきます。**

「顕在化した新たな課題」とは?

上記の中の「顕在化した新たな課題」を詳しく説明すると次の3点となります。

- 1) 運輸収入に大きな影響をもたらすコロナの影響による働き方の変化は定期券収入の減につながるとともに、沿線の将来人口も減少の方向に転じていく予測がなされている
 - 2) 建設資材の高騰や人手不足による人件費の高騰をはじめ、戦争によるエネルギー価格の上昇は、令和2年比で約2倍程度となっている
 - 3) 令和6、7年度の直近年度における企業償還金の負担が重く、資金不足が大幅に拡大することが見込まれている
- これらの課題解決については、**収支不足が緩やかになるための手法の選択やインバウンド観光の拡大による収益増、延伸事業による魅力あるまちづくりが検討**されています。

詳細設計の検討、手続準備は進行中

つぎに、早期の事業着手に向け、調査・設計の深度化や関係機関との協議・調整、行政手続について、鉄道事業許可取得後すみやかに詳細設計に入れるための深度化がなされているのかについて確認をいたしました。

これまで私が議会質問で質問してきた開業に向けた期間に最も影響を及ぼす**関係地権者が少ないルートの選定や、鉄道運行に適合するためのヨネッティ周辺駅へ向かう最大勾配や曲線半径の決定の検討**がしっかりとなされていることがわかりました。

さらに**横浜市域における延伸沿線周辺のグランドデザインと中間駅の構造についても検討**が深度化していることも確認ができました。

また、横浜市側の事務手続きとして**環境アセスメント、都市計画手続き、鉄道敷設の道路許可申請などの準備も肅々と進捗**されていることもわかりました。

上記の新たな課題や深度化の事例もふまえて**2030年開業に向けて横浜市は延伸事業に取り組んでいます。**

川崎市は市民意見を反映した 地下鉄新百合ヶ丘駅と 中間駅周辺整備の取りまとめを

事業促進のために、川崎市が横浜市とさらに協調するためには、川崎市域に関する事務手続きの準備とともに、延伸効果を生かしたグランドデザインと、多様なステークホルダー(利用者、使用者)にとって利便性の高い中間駅周辺整備を、市民意見を取り入れて早急に取りまとめおくことが重要となります。

ご意見をお聞かせください

お住まいは? **麻生区** **丁目**
※居住地ごとに集計の上、川崎市に提出しますので必ず町番をご記入ください

解答欄の□にチェックを入れてください。

【設問1】新百合ヶ丘駅をどのような目的で利用しますか? **複数回答可**
 通勤通学 仕事 買い物 飲食 趣味・娯楽
 その他()

【設問2】新百合ヶ丘駅を、どのくらいの頻度で利用しますか?
 毎日 週4、5回 週2、3回 月2、3回
 月1回 2、3か月に1回 年に数回 利用しない

【設問3】麻生区役所に行く目的は? **複数回答可**
 戸籍・住民票の手続き・相談 国民健康保険・年金の手続き・相談
 税金の手続き・相談 妊娠・出産・子育て・学校の手続き・相談
 医療・健康・衛生・動物の手続き・相談
 福祉・高齢者・障害者の手続き・相談 暮らし・環境の手続き・相談
 防災・救急・防犯の手続き・相談 市民館・図書館
 文化・芸術・スポーツ・地域活動・教育などに関する手続き・相談

【設問4】麻生区役所を、どのくらいの頻度で利用しますか?
 毎日 週4、5回 週2、3回 月2、3回
 月1回 2、3か月に1回 年に数回 利用しない

【設問5】新百合ヶ丘駅周辺の交通渋滞を感じる曜日と時間帯は?
 曜日の 早朝 午前 昼頃 午後 夕方 夜間
 曜日の 早朝 午前 昼頃 午後 夕方 夜間
 曜日の 早朝 午前 昼頃 午後 夕方 夜間

【設問6】川崎市の市民への説明は?
 充分 普通 不足

【設問7】まちづくりへの要望は? **宛名面に記入欄があります**

3月5日の川崎市予算審査特別委員会での質疑から

横浜市と連携し、魅力ある沿線地域の活性化や 利便性の向上、交通結節機能の強化検討を進める

あまがさ裕治 令和6年度横浜市の具体的内容と取り組みについては？

まちづくり局長 横浜市交通局からは、事業費の再算定や将来の需要予測を考慮した事業採算性の見直しなど、国の鉄道事業許可取得に必要な事業計画の精査、見直しを進めており、令和6年度も引き続き、駅やトンネル構造等の事業計画の精度を高めていくための必要な調査や、設計のさらなる深度化を図っていく予定であると聞いている

あまがさ裕治 ①工法の工夫による工事期間の短縮などの検討、②許可取得後に必要となる事務手続きの両市の準備とすり合わせ、③事業収入に関係する魅力ある沿線まちづくりの協議などは進んでいるか？

まちづくり局長 ①は今後の調査や設計に基づく施工計画の検討の中で深度化を図っていくと横浜市交通局より聞いている。②は鉄道事業法や都市計画、環境影響評価などが、効率的かつ円滑に手続きが進むように横浜市と連携した取り組みを進める。③は横浜市交通局による横浜市営交通経営審議会の答申でも、「3号線延伸による鉄道ネットワークの充実で、沿線地域の活性化や利便性の向上が期待されるので、早期の乗車定着が図れるよう、まちづくりとともにしっかりと連携をしていくべき」との方向が示されている。

あまがさ裕治 交通結節という大きな変化を土台と

ブルーライン(戸塚～湘南台:約7.4km)
許可取得から供用開始まで約8年4か月



上記の工事期間は約30年前であり、
工法の進化により、許可から供用開始までは、
さらに短期間で進められるようになっている

して進める新百合ヶ丘のまちづくりを、市民とともに創造していくためには情報の適切な公表は不可欠だが、副市長の見解は？

副市長「適切な情報発信に努める」

藤倉副市長 3号線延伸は市民の関心が高い事業であり、事業を進める上では、地権者や多くの市民の理解と協力が不可欠。今後の横浜市や国などの協議状況を踏まえ、適切な情報発信に努める。

今年4月、新百合ヶ丘駅周辺住民へアンケートし、意見反映を行い、 令和6年度内に「新百合ヶ丘駅周辺地区のまちづくり方針」策定 新百合ヶ丘駅周辺は「2号再開発促進地区」に

あまがさ裕治 新百合ヶ丘駅周辺再開発の方向性を考えるときに外せない重要施策が駅周辺の交通混雑の原因となっている、バス便は100%、タクシーは90%という南口ロータリーへの集中解消に向けて、検討課題を提示してきた。昨年は、都市基盤整備が脆弱な北口エリアの交通環境改善について、短期的な対応として北口ロータリーの運用見直しと北口から世田道入口交差点に出る右折帯を延長拡大させる交差点の改良を実施した。最重要課題であるバス発着を視野に入れた北口ロータリーの機能拡大については藤倉副市長からも課題意識を共有する答弁ももらった。昨年12月8日の麻生区の予算要望の際にも、市長に改めて駅周辺の混雑解消への抜本的な取り組みの要望をし、今回市長の施政方針

でも明確に「交通量の増加等の課題を踏まえ、駅周辺の渋滞緩和に向けて早急な取り組みを進める」と示された。市長の抜本的な解消に向けた考え方と決意についてお示しいただきたい。

福田市長「ハード、ソフト両面から 広域拠点にふさわしい、賑わいある まちづくりを着実に進める」

福田市長 新百合ヶ丘駅周辺のまちづくりについては、豊かな自然環境や文化・芸術等の地域資源を活かした魅力ある広域拠点の形成が求められる。土地区画整理事業が完成して約40年経過し、駅周辺における交通渋滞等の課題も生じていることから、横浜市高速鉄道3号線延伸を契機に、将来を見据えた土地利用の誘導や交通結節点の機能強化に向けた取り組みが必要であると認識している。特に、駅周辺においては、低未利用地等の土地利用の転換の動向等を適切に捉え、戦略的に民間活力を活かしたまちづくりを進めることが重要。今後も市民の皆様や関係権利者の皆様と幅広く議論を継続するとともに、様々な可能性について検討を進め、交通環境改善をはじめとして、ハード、ソフト両面から、本市の広域拠点にふさわしい賑わいのあるまちづくりを着実に進めていく。

あまがさ裕治 横浜市高速鉄道3号線延伸の促進に重要なファクターとなる沿線の魅力あるまちづくりの中心、「整備開発保全（整開保）の方針」と「新百合ヶ丘駅周辺まちづくり方針」の策定。進捗状況は？

まちづくり局長 根幹的な都市計画の方針を定める「整開保の方針」の令和6年度内の見直しに向け検討を進めており、令和4年12月にはパブリックコメントを行い、令和6年3月には見直し案を議会に報告し、公表する予定。今後、説明会や縦覧、公聴会などを実施する。新百合ヶ丘駅周辺地区においては、「整開保の方針の見直し」において、特に一体的かつ総合的に市街地の再開発を促進すべき相当規模の地区を定める「2号再開発促進地区」に位置づけ、土地利用転換の動向

などを適切に捉えながら、機動的にまちづくりを進めていく。これに合わせ、まちの将来像を土地利用や交通系体系等について具体的に示す「新百合ヶ丘駅周辺地区のまちづくり方針案」を本年秋ごろをめどに示し、パブリックコメントを実施後、令和6年度内に策定していく。

あまがさ裕治 行政計画策定には欠かせない市民意見の聴取については、過去4回の議会質問で、駅周辺の方々にアンケート調査や意見交換会の実施、区内イベントに合わせた意見募集の実施など今後も様々な機会をとらえて積極的に実施していくことなどが示された。今後の具体的な取り組みは？

まちづくり局長 まちづくり方針の策定にあたっての意見募集について、檜山公園や南口デッキで行われるイベントなどに合わせて、意見募集を継続的に実施しており、駅周辺の町会代表者などとの対話を開始した。さらに今年4月をめどに、駅周辺にお住まいの方々へのアンケート調査を行うなど、区役所と連携した意見募集機会の創出を含め、様々な機会を積極的に捉え、意見を聞いていく。

副市長「庁内横断的な検討会議で まちづくりを着実に進めていく」

あまがさ裕治 答弁では地権者から駅周辺の低未利用地の開発意向も示されていることが明らかとなった。横浜市高速鉄道3号線の延伸事業の鉄道免許取得に当初予定からのタイムラグが発生している今こそ、まちづくりの絶好の時間と捉えて川崎市関係部所が総力をあげて取り組む組織を作る必要があるが、藤倉副市長から明確な答弁を。

藤倉副市長 横浜市高速鉄道3号線沿線については、広域的な鉄道ネットワークの強化とともに、北部地域の一層のアクセシビリティ、利便性の向上や、地域の活性化など、本市にとっても大きなメリットをもたらすものであり、大変意義あるものと考えている。早期事業化に向けて横浜市と連携し取り組みを進めるとともに、当該地区のまちづくりについては、3号線延伸による周辺環境の変化や、駅周辺低未利用地の将来的な開発意向などを踏まえ、課題解決に向け、様々な観点から広くまちづくりを検討していく。検討に際しては、市民や権利者の皆様から引き続き意見をうかがうとともに、現在、関係局区で構成する庁内横断的な検討会議を立ち上げる準備をしており、当該地区のまちづくりを着実に進めていく。

<要望 新百合ヶ丘再開発室に> 「庁内検討会議を、立ち上げ早い段階で新百合ヶ丘再開発室のような専任の部署に格上げすること」を、副市長に要望したところ、副市長もはっきりとうなづかれました。

郵便はがき

215-8790

料金受取人払

麻生局承認

1401

差出有効期間
2026年3月
20日まで

(受取人)
川崎市麻生区高石
3-27-4

あまがさ裕治
事務所行

あなたのご意見をお寄せください

【設問7】まちづくりへの要望は？ の回答もこちらにどうぞ

お名前	住所・電話
ふりがな	川崎市
	TEL ()